



RS BARRIER

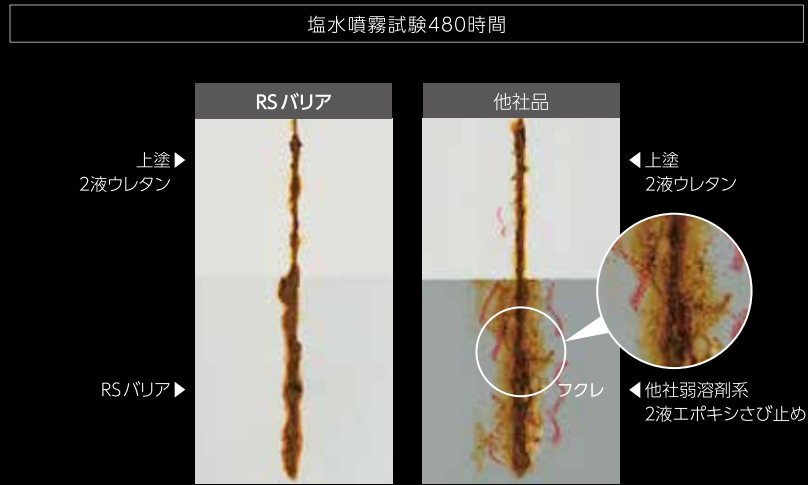
RS バリア

# RS BARRIER

F☆☆☆☆

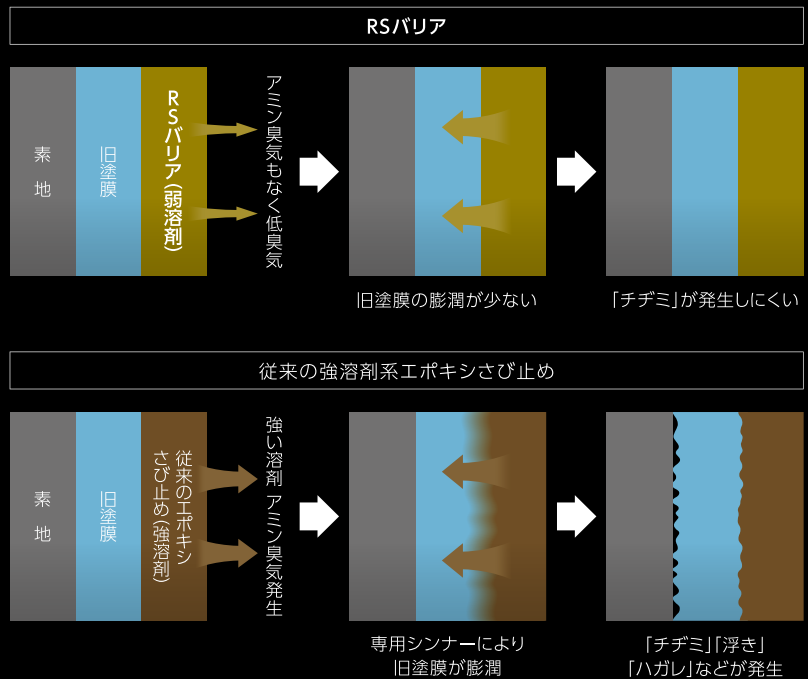
優れた防食性

構造物さび止めペイント(JIS K 5551 A種)と同等レベルの防錆力を示します。



幅広い下地適正

亜鉛メッキ、アルミニウムやコンクリートなどの各種素材に対して優れた付着力を発揮し、各種旧塗膜との密着性に優れます。



## ■ 塗装条件

塗装方法	刷毛	ローラー	エアレスプレー
希釈率	0~10%	0~10%	0~10%
標準所要量(kg/m <sup>2</sup> /回)	0.14	0.14	0.17
希釈剤	塗料用シンナーA		

※標準所要量は、個々の条件によって異なります。  
※標準所要量は、塗装作業に必要な使用量の数値です。

## ■ 塗装間隔

項目	温度	
	23℃	5~10℃
標準塗装間隔	最短	4時間
	最長	7日
使用時限	7時間	

## ■ 主な適用素材

鉄・亜鉛メッキ・アルミニウム・ステンレス・コンクリート

## 優れた防食性、幅広い下地適正を有した

人と環境に優しいオールマイティプライマーです。

### 施工上の注意事項

本注意事項及びにご使用になる上塗のカタログに記載の注意事項を必ずご確認の上、塗装を行ってください。

- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風の無い環境では、膨れ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。
- 可塑剤が多く含まれる部材（塩ビ鋼板、ゴムパッキング、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など）への塗装は避けてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合には塗装しないでください。（チヂミ、ニジミ、中うみ、ワレ等発生する場合があります。）
- 強溶剤系塗料上塗の塗装は避けてください。
- 気温5℃以下（低温）、湿度85%以上（高湿）での施工は避けてください。
- 屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。
- 塗装間隔は環境（温度、湿度、換気回数等）や膜厚によって変わります。
- 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- 塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化や艶引けなどの異常が生じやすくなります。山間部や河川に近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 本品は乾燥過程で水（降雨、結露等）の影響を受けると白化することがあります。白化した場合は軽く表面を研磨するなどの処置をしてから次の工程に移ってください。
- 塗装仕様書に記載の数値は標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。
- 塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行なってください。
- 塗装間隔は厳守してください。塗装間隔を過ぎた場合は目荒らしを行った後に塗装してください。また、塗装間隔が短い場合は、チヂミ、ワレ、シワ等が発生することがありますのでご注意ください。
- 下塗の塗装後、所定の塗装間隔よりも早く上塗を塗装すると、チヂミ、ワレ、シワ等が発生することがありますので、塗装間隔を厳守してください。
- 本品を塗装の際は、中途や上塗に塗り残しや透けがないようご注意ください。塗り残しや透けがある場合、紫外線の透過により本品塗膜が紫外線劣化を起こし層間で剥離が生じるおそれがあります。
- 屋内の旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、経年で塗膜が非常に硬くなるため、旧塗膜との密着性が悪くなるケースがあります。必ず研磨すりを行い、本品を塗装してください。下地処理が不十分な場合は、チヂミや塗膜剥離の原因となります。
- 防食性は膜厚に影響を受けます。素材のエッジ部などの薄膜になる形状には、増し塗りするなどして十分な膜厚を確保してください。
- アルミニウム、ステンレス、溶融亜鉛めっき、電気亜鉛めっきなどの非鉄金属素地に塗装する場合は入念な面荒しを行ってください。
- 硬質塩ビ種やFRPの場合は、下地調整とし目荒らしと脱脂を行った上で塗装してください。
- 上塗の塗装時に刷毛・ローラーでこすり塗ると、さび止めが再溶解することがありますのでご注意ください。
- ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 刷毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。
- 下地の劣化が著しく旧塗膜の密着不良が見られる場合は、脆弱塗膜を全て除去してください。
- 鉄面の素地調整は、塗膜の耐久性に影響を及ぼす要因のひとつですので、さびの著しい部位は入念にさびを除去してください。
- 被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、ハジキや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。
- スプレー塗装を行う場合は、塗装ミストによる汚染防止のために特に十分な養生を行なってください。

### 【施工上のポイント】

- 塗料の混合割合  
「RSバリア」は2液形塗料です。主剤と硬化剤は、9（主剤）：1（硬化剤）の割合で混合してからご使用ください。
- 希釈剤  
「塗料用シンナーA」を規定の割合で希釈して使用してください。

- 低温時の使用では、硬化剤混合後、時間が経ってもゲル化しない場合がありますが、ポットライフを過ぎた塗料は使用しないでください。塗膜性能不良の原因になります。
- 主剤と硬化剤を規定の混合比率で配合した後、十分攪拌した後で塗装に使用してください。
- 主剤と硬化剤の混合比率が合っていない場合には、仕上り性、耐久性等の諸性能に影響しますので正確に計量し配合してください。
- 主剤と硬化剤を混合した塗料は、可使用時間内に使用してください。可使用時間を過ぎたものを使用すると性能低下などの不具合を起こすおそれがありますので廃棄してください。
- 塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。
- 規定範囲を超えて希釈すると、ハジキ・光沢低下・色味変化・ダレ・隠蔽力不足など仕上りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- 塗料の希釈に「塗料用シンナーA」以外のシンナーを使用した場合、再溶解やチヂミ等の不具合を生じることがあります。
- 塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- 材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。
- 現場での材料は、容器が密栓されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷暗所で保管してください。
- 硬化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応しゲル化変質しますので、開栓後は速やかに使い切ってください。
- 溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しないよう十分な換気をしてください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気口から流入しないよう養生を行ってください。
- 塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火を防止するため水に浸漬するなどして安全対策を行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

### 【金属系屋根】

- 粘土瓦（袖葉瓦、いびし瓦など）、洋風瓦には適用できません。
- 気象条件によりますが、塗装作業は、原則として晴天日の午前9時から午後3時までの時間帯を推奨します。
- 秋期のような昼と夜の温度差が激しい時期は、結露による艶引け現象がおこり易いため、時間を考慮して塗装を行なってください。
- スノードクトのような勾配の殆ど無い屋根の塗り替えは、高い耐水性性能を要求されるため必ず下塗1回、上塗2回で塗装を行なってください。
- 積雪の荷重を最も受けやすい軒先の部分、瓦葺の凸部、はげ部にはこすり付けるように増し塗りを行なってください。
- 艶消しトタン屋根を塗り替える場合には、素材に対する上塗塗料の吸い込みを抑えるため、本品を下塗としてご使用ください。
- トタン素地露出部は本品で先行塗りをし、所定の塗装仕様で塗装してください。
- 遮熱性能は下塗と上塗の総合膜により発揮します。下塗は必ず専用のものをご使用ください。
- 折板屋根等のエッジ部等は、エアレス塗装ではスケ等が発生する場合がありますため、刷毛・ローラーで先行し増し塗りを行った後、エアレス塗装を実施してください。エアレス塗装を行った後に刷毛・ローラーで補修塗りをすると、補修箇所の色相が異なることがあります。
- 気温の高い日や被塗物温度が高い場合は「スーパーノンブラ」をご使用ください。
- 炭、油、樹液等は、塗装前に溶剤拭きや水洗い(温水)等で充分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。特にトタンの折り曲げ部分は埃や砂等がたまりやすいので入念な清掃を行なってください。
- ガルバリウム鋼板は素材自体が遮熱性と熱放射性に優れています。一般塗料に比べ「RSルーフ2液F」「RSルーフ2液S」等の遮熱塗料は遮熱効果を発揮しますが、素材自体と比較した場合、それほど遮熱効果は期待できませんのでご注意ください。
- 高圧水洗を行うと屋根が滑りやすくなりますので、足場には十分注意してください。

### ● 塗装用具及び洗浄

刷毛・ローラー・エアレスで塗装できます。使用後塗装用具の洗浄には、ラッカーシンナー又はエポキシシンナーをご使用ください。

### ご使用上の注意事項

本注意事項及びにご使用になる上塗のカタログに記載の注意事項を必ずご確認の上、塗装を行ってください。

### 【予防策】

取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具（帽子・保護メガネ・マスク・手袋等）を着用し、身体に付着しないようにすること。  
吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。  
皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。  
火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。  
火災が発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。  
裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。  
本来の目的以外に使用しないこと。  
指定材料以外のものとは混合（多液品のこと・希釈等）しないこと。  
缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。  
取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。  
使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。  
本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

### 【対応】

目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

吸い込んだ場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。

漏出時や飛散した場合は、砂、布類（ウエス）等で吸い取り、拭き取ること。

火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

### 【保管】

指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

### 【廃棄】

本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。（排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。）

### 【施工後の安全】

本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うよう指導してください。

例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

# リフォーム サミット店

Supported by KANSAI PAINT

関西ペイント販売株式会社  関西ペイントホームページ [www.kansai.co.jp](http://www.kansai.co.jp)

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。



リフォームサミット  
紹介動画はこちら